



今野 清孝
(市民の声)

我が店自慢の 一品・逸品

質問 市内には、知る人ぞ知る我が店自慢の一品・逸品がある。これらを集めてのフェアの開催、ステッカーの作製、マップの作製など我が店自慢の一品・逸品運動を推進してみてはどうか。

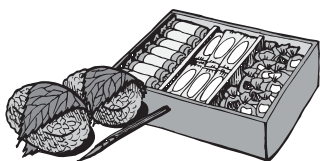
答弁 それぞれの店に自慢の一品があり、人気の高い、能代の代名詞となっているような商品もある。能代のよいもの、隠れた逸品を掘り起こし、広く市内外に紹介することから、販路の拡大が図られ、商業振興、物産振興につながると期待している。能代の自慢の一品を紹介する方法、売り込む機会をつくっていくことは、商業者、事業者の意欲向上につながり、能代の商業、商店街の活性化が促進されるので、関係団体との連携を進め、検討したい。

- 今野議員のその他の質問事項**
- 市職員のメンタルケア
 - 市税・税外収入の収納体制
 - 行政の説明責任

火力協力金の用途

質問 火力協力金7億円は、有効活用されていない。地域経済活性化のためにも、早期の有効活用が求められている。用途についての検討状況はどうなっているのか。また、火力協力金を活用しての事業の実施の見通しは。

答弁 協力金の用途については、ハード事業にこだわらずソフト事業も含めること、事業内容が総合計画期間内に実施できるものであること、東北電力の寄附趣旨ができるだけ生かされるものであること、更には地域の優先課題とされた分野の事業かどうか、などの視点から検討を進めている。現在、各部署や政策課題検討チームDoからの提案について、内容的な重複を整理し、事業化の可能性の面から絞り込みを行っている。今後、さらに個々の事業内容の精査と候補事業の絞り込みを行い、年内には最終的な活用の方向性を決定し、総合計画に位置づけたい。



中心市街地活性化策



原田 悦子
(よねしろ会)

質問 中心市街地活性化に向けてそれぞれの商店街を構成する方々が地域ぐるみで考え、実行していこうとする体制ができていくか。中心市街地におけるまちづくりのリーダーシップはだれがとるものか。

答弁 中心市街地においてまちづくりを推進し、活性化を実現するためには、民間と行政とが協働し、地域ぐるみで取り組むことが重要であり、意欲のある、やる気のある方々を広く巻き込みながら体制づくりを行っていききたい。また、商店街のにぎわい創出は、商業者の主体的な取り組みが第一義と考えている。市民が参画する中で、商業者が中心となって取り組む商店街の振興と、行政が取り組む定住対策などの公益施策とが相まって、実現できるものと考えている。

- 原田議員のその他の質問事項**
- 二ツ井地域防災行政無線施設整備
 - 能代港の利活用

能代産業廃棄物 処理センター

質問 いったん汚染されたものを回復するには膨大なエネルギーと金がかかる。浅内財産区有地「蒲の沢」被害にかかわる原因者への法的措置について検討したか。

答弁 市の顧問弁護士と産廃処理センターに係る住民訴訟の際に依頼した弁護士と双方に相談し、その中で汚染水の滲出が現在も継続しているため時効は完成していないとのことであり、また、損害賠償については被害者として民法に基づく請求は可能ではあるが、請求は損害の回復が目的であり、それができない場合の請求については消極的な意見であった。財産区としては、損害賠償の請求について課題等を精査するとともに、県と元経営者の動向等を見ながら、財産区管理会と十分協議し、検討したいと考えている。



県が実施した蒲の沢対策工事